

1 学校教育目標
① 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材の育成を図る。
② 「磨き 鍛えん 青春の志高く」を共通の指導理念とし、進路希望の実現のために真摯に努力する元気澆刺とした生徒の育成を図る。

2 本年度の重点目標
熊本県教育委員会から示された「平成29年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。
① 出席率の向上 ② 就労率の向上 ③ 授業改革・基礎学力の向上 ④ 生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立 ⑤ 進路指導の充実・自己実現 ⑥ 学校行事の活性化 ⑦ 校務改革・生徒と向き合う時間の確保・多忙化解消

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	本年度の重点目標の達成	全職員が目標を共有し、全ての目標に於いて前年度を上回る。出席率と就労率は共に7割以上を目指す。	職員一人ひとりが生徒の状況を把握して保護者の協力を得ながら励まし、出席率の向上に努め、また、積極的に就労場の紹介を行う。中途退学に伴う不利益を機会ある毎に諭す。	B	生徒情報連絡会を通して、生徒の状況について全職員で共通認識を持って指導に取り組んだ結果、出席率は79.6%と目標の7割以上を満たすことができた。一方、就労率については66.7%であり、目標の7割以上にあと一步届かなかった。年度途中の9月段階では70%に達していたが、その後の生徒の進路変更等により、数値が下がってしまった。中学次に不登校経験を持つ生徒の出席率と就労率の向上については、スモールステップではあるが改善傾向にある。
		保護者との連携	秀麗会総会等の各種行事への保護者の参加率を5割以上にする。	日頃から保護者との連絡を密に取ることで、保護者との連携を強化し、保護者が各種行事へ参加しやすい環境づくりに努める。		
	教員の資質向上	教科指導力・生徒指導力及び進路指導力の向上	生徒の実態に応じた指導力を身に付けることで、3つの観点において、生徒の満足度が9割以	教科指導力向上のために、公開授業を積極的に行う。生徒指導については、生徒情報連絡会を	A	公開授業には多くの職員が参加し、教科指導力の向上に繋げることができた。生徒指導については、生徒情報連絡会と生徒部会を週に1

			上になることを目指す。	週1回開き、情報の共有に努め、全職員で取り組む。進路指導については、進学に関する説明会に積極的に参加すると共に、全教育活動を進路指導の充実に繋げる。		回ずつ開くことにより、全職員の共通理解をもった生徒指導を行うことができた。 進路指導については、企業見学や進路講話等に全職員で参加し、全教育活動を進路指導の充実に繋げている。 教科指導力、生徒指導力、進路指導力の生徒の満足度は、教科指導力が87.6%、生徒指導力が87.6%、93.8%であり、ほぼ9割の数値が出た。
		不祥事の防止	職員の不祥事0。	各学期に不祥事防止のための研修を行う。	A	研修内容を充実させたことにより、不祥事ゼロを達成した。
学力向上	学習習慣の確立	授業を受ける姿勢の更なる改善	授業中の態度の改善及び遅刻や中抜けする生徒の数を減らす。	生徒に関する情報を職員間で共有し、共通理解を図る。更に、内規や取り決め事項を厳格に適用する。	A	職員間の情報交換を密にし、共通理解をもった指導を行うことにより、授業を受ける態度は改善され、落ち着いた状態である。中抜けする生徒は全くいない。 遅刻の指導については、登校指導による声掛けや、担任以外の教師による個別面談を実施してきたが、今後も粘り強く指導を継続し、保護者の協力を得ながら、更なる改善に努めたい。
		学習習慣の向上と自ら学ぶ習慣づけ	課題テストの成績の向上と総合的な学習の時間の活性化を図る。	課題テストを年間6回実施する。課題の配付を早めに行い、事後指導を充実することで、学習意欲を向上させる。	A	定例の課題考査が生徒に定着しており、意欲的に取り組む生徒も増えている。 総合的な学習の時間は、文化的活動と体育的活動に分けて実施したことにより、内容の充実と生徒の意欲の向上が図れた。
	学力向上	成績の向上	欠点保持者数及び欠点科目数の昨年比減を図る。	授業改革を一層進め、分かり易い授業の展開や教材・教具の工夫を図る。	A	各教科ともわかりやすい授業を心掛け、公開授業や研修に積極的に参加するなど、指導力の向上に努めた。 欠点保持者、欠点科目数ともに昨年度比減を達成した。
		自ら学ぶ意欲を引き出す指導	個に応じた指導を展開する。	生徒の要求や進路目標に応じた個別指導や添削を実施	A	漢字・計算などを内容にした適性小テストや、大学進学を希望する生徒に対す

				する。		る個別指導を実施した。
効用キャリア教育(進路指導)	進路意識の向上	職業観の育成	正規社員として働くことの意義や内容を具体的に理解する。	外部講師による進路講話や校内学習を通じて、必要とされる職業観を育成する。	B	1, 2学期に進路講話を実施し、校内学習を通じた職業観の育成により、就職意識の高揚を図ることができた。
		就労指導の充実	進学学習重視の生徒もいるため、生徒の就労率は短期アルバイトを含め7割台を目指す。	服装や言葉遣い等を含めた接遇マナーの向上を図り、求人情報の収集や面接指導を行いながら、ハローワークと連携して、希望する就労先探しに協力する。	B	アルバイトを含め、6割台の就労率である。中学次以前からの不登校傾向を克服し、先ずは学校を欠席しないよう指導している。スモールステップではあるが、徐々に就労に対する意欲も出てきており、今後も継続して指導したい。
	進路保障	進学・就職の決定	卒業予定者全員が進路先を内定及び合格して卒業を迎える。	ライフプランニングや職業講話等で知識を学び、課題テスト等を通して基礎学力を身に付け、実力を発揮して内定や合格を獲得する。	A	進学希望者1名、就職希望者2名とも年内に合格及び内定を得ることができた。 ハローワークと連携して求人情報の収集に努め、進路講話や企業見学等を実施することができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	けじめのある生活	遅刻、欠席を減らす習慣をつける。	毎日のホームルームにおける正副担による指導はもとより、1年生については6月に運営委員による面接を実施し、高校生活のスタート状況を確認する。また、家庭との連携を密にとる。	B	欠席をする場合は必ず届けるという習慣が定着し、無断欠席をする生徒はいない。しかし、体調を崩しやすい生徒もいるため、健康管理、環境衛生についての指導が必要である。 特に1年生については、夏休み前には、休み中の生活態度を徹底的に指導する必要がある。
	生徒会活動及び学校行事の活性化	生徒の主体的活動の支援	生徒にとって、やりがいのある行事を精選・実施し、学校生活を充実したものにする。	生徒会が生徒会行事を立案・実施し、生徒が主体的に取り組むことによって、自己肯定感を育む。保護者・同窓会・地域との連携により、活性化を図る。	A	生徒会執行部の生徒が中心となって企画立案し、全ての行事において生徒が主体的に取り組む姿勢が見られた。 定通体育大会に向けた練習には全生徒が意欲的に参加し、各競技とも全体的なレベルが上がった。 定通文化大会についても全校生徒でステージ発表を行い、高い評価を受けた。 校内文化クラブ発表会では、ステージ発表、展示、バザーなど充実した取組ができた。

人権教育の推進	人権を尊重する姿勢	人権を尊重する姿勢をもった指導	教師・生徒共に人権を尊重した姿勢をもつ。	年に1度、人権同和教育講演会を実施して、職員及び生徒の意識の向上を図る。また、職員研修を計画し、職員の更なる意識の向上を図る。	A	LHRの時間を活用して、人権センターのDVDにより、同和問題・結婚差別問題について学習し、生徒と職員の意識向上を図った。 職員研修では、ハンセン病、拉致問題について研修を行い、理解を深めることができた。
	命を大切にすることを育む指導	生徒一人ひとりが自他の命を大切にすることをもち	学期に1度職員への人権教育研修を実施すると共に、命の大切さを生徒に対して考える機会を設ける。	人権教育に関する研修の中だけでなく、全ての教科指導の中で積極的に命の大切さを取り扱う。	A	各教科、各HRにおいて、社会的事象等を取り上げながら「命の大切さ」について触れてきた。昨年の大地震や北朝鮮のミサイル問題についても題材とした。
いじめの防止等	生徒の状況把握	いじめの根絶と情報の共有	いじめの解消率を100%にし、いじめの兆候があった場合は、職員間で連携をとり、情報の共有を行う。	アンケート調査、生徒状況を通して、いじめの兆候については早い段階で把握し、迅速に対応する。	A	6月の「いじめ」根絶月間には、本校独自の「いじめ防止アンケート」、11月には県作成の「心のアンケート」を実施したが、いじめと思われる事項はなかった。今後も生徒情報連絡会を充実させるなど、生徒間の人間関係の変化については注意深く対応していきたい。
	いじめの予防	「心のきずなを深める月間」の充実	互いに尊重し合う態度や気持ちや常にも、互いを思いやれる関係や信頼し合える関係を「絆」として深めていけるようにする。	LHRでストレス対処教育プログラムに則った授業を実施し、昨年度策定した「人定いじめゼロ宣言」を継続して厳守する指導を行う。	A	「心のきずなを深める月間」の取組として6月に「二者択一」、1月に「アンガーマネジメント」の授業（ストレス対処プログラム）を実施し、生徒が生活上の困難・ストレスに直面したときの対処方法について学んだ。 「人定いじめゼロ宣言」は継続して作成し、意識の高揚も図った。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	防災型コミュニティ・スクールをベースにした、防災意識の高揚と、地域と一体となった連携体制の構築	防災教育の充実	学校防災年間計画を作成し、防災教育の充実を図る。	生徒の防災意識を高める取組を計画し、生徒の地域との連携の重要性を認識させる。	B	人吉市「総合防災マップ」を使用し、災害時の対応や指定避難所、土砂災害警戒区域・特別警戒区域等について学び、防災意識の高揚を図った。
		地域や関連機関との連携の確立	学校運営協議会を設置し、計画的に協議会を開催する。	年間4回の協議会を通して、防災拠点の役割を確立し、地域との連携を強化する。	A	年間4回の学校運営協議会で防災拠点の役割を確立し、人吉市の防災訓練では実際に避難所として機能することができた。

校務改革	多忙化の解消	業務の効率化	業務内容を精査し、効率化を図ることにより、生徒と向き合う時間を確保する。	職員一人ひとりが課題を抱え込むことが無いように、全職員で取り組む意識を高揚させる。また、保護者との連携により、生徒の基本的な生活習慣を確立させることで、負担感を解消する。	A	生徒情報連絡会を通じて、個々の生徒の課題を全職員で早期に把握し、全職員が課題解決のために多方面から支援を行っていきることにより、担任が一人で抱え込むことが無いようにしている。 仕事の見通しを立てやすくするために、行事予定を早めに作成したり、職員研修をまとめたり、一つの会議の時間を短縮することにより、業務の効率化を図った。
------	--------	--------	--------------------------------------	---	---	--

4 学校関係者評価

1 学校評価表（自己評価）について内容や評価は適切であるか。

(1) 学校教育目標について

- ・本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神で、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材の育成を図り、定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえた教育目標があげられていると思う。
- ・基本目標は、本校・定時制・分校共に統一され、整合性が保たれており、内容も伝統校にふさわしく、格調高いものになっています。今後もこのスタイルを継続して欲しい。
- ・重点目標に定時制らしさが出ていたので良いと思う。
- ・適切であると思う。

(2) 学校評価の内容や方法について

- ・少人数でアンケートの集計結果を示すのは大変なことだと思う。その分、成果と課題をしっかりと具体的に示され、わかりやすい自己評価であると思う。
- ・内容や方法は適切と思う。特に学校評価アンケートの三者「同一項目集計結果」によって、三者の比較、前年との比較についてまとめられており、見易いと思う。

(3) 学校評価の結果について

- ・立場や状況が違う生徒一人ひとりに向き合う先生方の御苦労は、大変なものだと思う。にもかかわらず目標に向け具体的方策を立て、その成果がしっかりあがってきていると思う。今後も継続をよろしく願いたい。
- ・成果と課題がよく表われている。「あいさつ」「人高生としての誇り」「授業への積極性」において、生徒・職員の評価が低いのが気になる。
- ・前年より良くなっているように思う。
- ・しっかりと考察されていると思う。

2 教育活動・その他の学校運営の改善に向けた取組について

(1) 学校経営について

- ・現在在校生の状況把握はしっかりと努力され、成果もあがっていると思う。学校経営として、それ以外に外部に向けてのPRも少しあっても良いのではないかと。
- ・まず、定員確保が課題である。インターネット・人吉新聞への記事掲載等により、定時制の存在を示すのも良いと思う。
- ・出席率・就職率の向上と、退学者防止に職員の努力の成果はあったようである。
- ・外国人の生徒が増加すると思うので、安心して学べる道筋をつけてやって欲しい。国際的な交わりの中で、生徒にも成長して欲しいし、評判の良い学びの場があることで、地域活性化にも貢献できると思う。
- ・生徒の出席率の向上は、良く取組まれていると思う。

(2) 学力向上について

- ・具体的目標に向け、しっかりとした方策が取組まれ、生徒の学力向上が成果として出ていると思う。
- ・種々の取組がなされており、その成果はあったようである。しかし、特に生徒において勉強と仕事の両立に課題がありそうなので、注意深く観察し、必要に応じたケアも必要である。
- ・勉強と仕事の両立に努力している生徒が増加しているので良いと思う。
- ・中抜けがゼロ、欠点の減など成果も上がっていると思うが、生徒に一部実感が伴っていないような状況も見られるのが気になる。

- (3) キャリア教育（進路指導）について
- ・進路に向けての意識向上に、適切な具体的方策がなされ、その成果が表われていると思う。今後も継続的した取組をお願いしたい。
 - ・まず、定時制は「働きながら学ぶ」という原則を今一度認識させ、「働く」という意義を身に付けさせることによって、おのずから進路について考えるようになり、出席率も向上し、学ぶ意欲も出てくると思う。指導の成果は出ていると思う。
 - ・情報提供や取組の充実については、生徒は28年度より向上しており、好ましく思う。逆に保護者の方が28年度より低下しているのが残念に思う。
- (4) 生徒指導について
- ・個人個人の指導も大変だと思う。また、しっかりとした共通目標があり、対策によりその成果がしっかり生徒の自信に繋がっているということで、素晴らしいと思う。
 - ・基本的な生活習慣の確立と、生徒会活動及び学校行事の活性化を中心に据えて指導され、その成果は出ているようである。ただ、生徒の評価が低いのが気になる。
 - ・不登校経験者等がいる中で、本当に丁寧な取組をしていただいていると感謝している。
- (5) 人権教育の推進について
- ・人権を尊重し、また命を大切にすることを目標に、しっかりとした社会的事象などを取り上げ、色々な授業で対策をとられていると思う。
 - ・人権尊重・命を大切にすることを中心に、種々の取組をされている。DVDの利用、社会的事象等を題材にする等、工夫のあとが見える。ただ、保護者の評価が若干低いのが気になる。生徒指導の実態を保護者へ披露することも必要かもしれない。
 - ・生徒のアンケート結果が昨年度に比べて向上しているのが大変良いと思う。
- (6) いじめの防止について
- ・先生と生徒のつながりが強いということで、いじめ防止についての目標、また対策もしっかり対応できていると思う。
 - ・種々の取組により表には出ていないようであるが、生徒と保護者の評価が若干低調である。「かくれいじめ」が無いのか、今後も十分に注意して行って欲しい。
 - ・いじめや悩み相談に関して、一部厳しい評価をしている部分を大切にしたいと思う。
- (7) 地域連携（コミュニティ・スクールなど）について
- ・防災教育を目標に、地域との連携の重要性を認識させる対策の取組がしっかりできていると思う。
 - ・最近では災害が多発するようになったので、防災意識も高まってきている。社会的要請に応えるべく、災害拠点の役割を確立し、地域との連携に取組んでいる。定時制としての役割分担を確立して欲しい。
 - ・コミュニティ・スクールの取組を通じて、充実してきていると思う。
- (8) 校務改革について
- ・多忙化の解消ということで、業務の効率化という目標があげられ、それに対する対策がしっかり成果を上げていると思う。
 - ・業務の効率化については、一般企業においても常に問われている。全職員と保護者との連携を図りながら、課題解決に取組んでおられ、成果が出つつある。
 - ・着実な取組がなされているように思う。
- 3 その他
- ・生徒一人ひとりに心のこもった対応が感じられる。今後もより良い御指導をお願いしたい。
 - ・入学してから卒業させるまで、先生方の御苦労は大変であると思う。生徒数もだんだん減り、定時制の維持そのものが問われる時が来ないように、人高定時制の広報活動がより重要になってくる。先生方の懸命な取組に心から敬意を表したい。
 - ・これから10年、20年先に一番大きく変化する可能性があるのは、定時制のような気がする。今、人吉でも外国人の若い労働者が確実に増加している。その人たちが日本国籍を取りたい、もっと日本のことを勉強したいと思ったら…。定時制の今後に期待している。

5 総合評価

学校評議員の方々からは、高い評価と励ましの言葉をいただき、感謝の気持ちで一杯である。今後も期待に添える運営ができるよう、更に力を尽くしていきたい。

本年度の重点目標は、①出席率の向上、②就労率の向上、③授業改革・基礎学力の向上、④生徒指導の徹底・基本的な生活習慣の確立、⑤進路指導の充実・自己実現、⑥学校行事の活性化、⑦校務改革・生徒と向き合う時間の確保・多忙化解消の7つを掲げ、各部その目標達成に向けて取り組んできた。しかし、数値目標を十分に達成できなかったところもあるため、来年度に向けて更に取組を充実させたい。

具体的には、②就労率の向上について7割以上の目標を設定したが、実際には6割強にとどまってしまったことである。このことは、定時制の生徒の中には、中学校以前に不登校経験を持つ生徒が複数名在籍しており、その生徒たちについては、まず登校することから指導を行っている。その結果、重点目標①出席率の向上については8割弱と成果を見せたが、就労率をア

アップするところまでには至らなかった。しかし、出席率が向上したことにより、働きながら学ぶ意識を少しずつ持たせる環境は整ってきたといえる。スモールステップではあるが、今後も徐々に仕事へも目を向けさせる指導を継続していきたい。

保護者との連携については、保護者総会への出席率が伸び悩んでいる一方、学校行事への保護者の参加協力については伸びを見せており、今後の連携については、生徒会と共に工夫をしながら取り組むことで、⑥学校行事の活性化にも繋げていきたい。

学力向上、成績の向上については、各教科とも分かり易い授業を心掛けており、更なる③授業改善・基礎学力の向上に取り組んでいるところである。

⑤進路指導の充実・自己実現については、進路指導主事を中心に個別指導や企業見学、進路講演会を実施しているが、生徒の多様なニーズに応えるためにも、今後工夫を重ねていきたい。

いじめの防止等については、日頃から週1回の生徒情報連絡会等を通じ、早期発見に努めているが、現在のところ役割の片務性等の初期段階のいじめ傾向は認められなかった。また、年に2回実施している生徒アンケートについても、内容の充実に努めていきたい。更に、生徒会を中心に「いじめゼロ宣言」を作成しており、この取組についても継続していきたい。

⑦校務改革・生徒と向き合う時間の確保・多忙化解消については、一人の職員が課題を抱え込むことにならないよう、職場の明るい雰囲気づくりを重視しており、それにより全職員による組織的な指導体制が整いつつある。

6 次年度への課題・改善方策

- ① 出席率は向上してきているので、次年度は次のステップとして就労率の向上に力を尽くしたい。その際は、生徒に負担がかからないよう十分に配慮していく。
- ② 保護者との連携を強化し、生徒会活動の充実に図ることにより、学校行事の活性化に繋げる。保護者が学校に赴きやすい環境をつくることが重要である。
- ③ 授業改革・基礎学力の向上については、今後も各教科が分かり易い授業展開ができるよう努力を重ねていく。
- ④ 進路指導の充実については、進路講話の内容や企業見学先について、生徒、保護者、職員のニーズを取り入れ、より効果のあるものにしていく。
- ⑤ 校務改革・生徒と向き合う時間の確保・多忙化解消については、今後も明るい職場環境づくりに力を注ぎ、共通理解をもった指導を行うことにより、個々の職員の負担感軽減に努めていく。

また、年度末反省で各部の課題を出し合い、今すぐ改善できるもの、次年度から実施していくために今年度中に見直しが必要なもの、長期的な計画で改善していくものが整理された。総合評価の中で挙げた課題と、その克服のために必要な取組については、各部からの原案をもとに全職員で検討し、共通理解をもった指導に繋げていきたい。